

副専攻名 比較社会経済[基礎]

副専攻のCP(カリキュラム編成方針)

国際経済や経済史に加えて、世界各地の社会や経済を学ぶ専門科目群を幅広く配置する。この中から学生は、各自の興味に応じて自主的に履修計画を作成することが出来る。

副専攻の学習成果

1. 幅広い教養を身につけ、複眼的に現代社会を視る目を養う。
2. 経済学・経営学を学ぶに必要な基礎的な考え方や分析手法を修得する。
3. 市場経済のしくみと政府の役割を理解する。
4. 国際経済、国際社会の動向および外国経済事情に対する理解を深める。
5. 現代経済社会が形成されるに至った過程及び背景を理解する。
6. さまざまな経済学説や理論を修得する。
7. 国際社会、日本社会、地域社会が抱える諸問題を理解し、解決の為に政策立案能力を養う。
8. 課題を発見し、自ら調べ、解決策を導き出す能力を培う。
9. さまざまな情報源(日本語以外で発信されているものも含む)から適切な情報を取捨選択し、有益に活用する能力を養う

副専攻を構成する科目

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	開講期※1	
				前期	後期
13302	西洋経済史A	近代から現代のヨーロッパ経済の発展過程をたどることによって、1. 経済学的な分析手法の基礎を習得することができる。2. 現在のヨーロッパ経済の歴史的基礎を理解することができる。	1～4		
33501	西洋経済史B	古代から近代のヨーロッパ経済の発展過程をたどることによって、1. 経済史から経済学にアプローチする手法を身に付けることができる。2. 現在のヨーロッパ経済の歴史的基礎を理解することができる。	2～4		
13301	日本経済史A	1. 日本帝国主義を含む戦前日本経済の実相を理解できるようになる。 2. 事象を複眼的にとらえることができるようになる。	1～4		
33505	日本経済史B	1. 戦後日本経済の実相を理解できるようになる。 2. 事象を複眼的にとらえることができるようになる。	2～4		
13303	アジア経済史A	近代アジアにおける資本主義的経済発展について再考することを目標とする。	2～4		
33507	アジア経済史B	近現代東アジアにおける資本主義的発展の意義について理解することを目標とする。	2～4		
13402	社会思想史A	現代社会が抱える自由、平等、人権、マイノリティ問題等を考えるさいの方法的視野を広げることができる。	2～4		
33511	社会思想史B	現代社会が抱える自由、平等、人権、マイノリティ問題等を考えるさいの方法的視野を広げることができる。	2～4		
33513	世界経済論A	20世紀以降の世界経済の展開と概要を、先進国と途上国の関係から学ぶ。	2～4		
33515	世界経済論B	1. 発展途上国経済の現状について学ぶ。 2. 先進国の発展途上国支援やBOPビジネスについて理解する。	2～4		
33517	国際公共経済論A	1. 国際政治経済秩序の根幹を成す「国際公共財」につき、①「国際公共財」とは何か、②「国際公共財」の形成・発展過程について理解することができる。 2. 国際政治経済学の代表的理論について理解することができる。	2～4		
33519	国際公共経済論B	国際法、国際機構、対途上国援助など、現代世界における主要な国際公共財について、具体的に理解することができる。	2～4		
33520	比較経済体制論A	比較経済学に基づき歴史的・制度的視点から世界経済動向を理解し、現在を捉える力を養う。	2～4		
33521	比較経済体制論B	比較経済学に基づき世界各地の経済システムの特徴を理解し、現在を捉える力を養う。	2～4		
33523	環日本海地域論A	日本や朝鮮、中国の問題を主体的に考えることができるの能力の獲得	2～4		
33525	環日本海地域論B	日本や朝鮮、中国の問題を主体的に考える能力の獲得	2～4		
33527	ヨーロッパ経済統合論A	EUとは何かを理解し、国際社会におけるEUの位置と役割が理解できるようになる。	2～4		

副専攻名 比較社会経済[基礎]

副専攻のCP(カリキュラム編成方針)

国際経済や経済史に加えて、世界各地の社会や経済を学ぶ専門科目群を幅広く配置する。この中から学生は、各自の興味に応じて自主的に履修計画を作成することが出来る。

副専攻の学習成果

1. 幅広い教養を身につけ、複眼的に現代社会を視る目を養う。
2. 経済学・経営学を学ぶに必要な基礎的な考え方や分析手法を修得する。
3. 市場経済のしくみと政府の役割を理解する。
4. 国際経済、国際社会の動向および外国経済事情に対する理解を深める。
5. 現代経済社会が形成されるに至った過程及び背景を理解する。
6. さまざまな経済学説や理論を修得する。
7. 国際社会、日本社会、地域社会が抱える諸問題を理解し、解決の為に政策立案能力を養う。
8. 課題を発見し、自ら調べ、解決策を導き出す能力を培う。
9. さまざまな情報源(日本語以外で発信されているものも含む)から適切な情報を取捨選択し、有益に活用する能力を養う

副専攻を構成する科目

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	開講期※1	
				前期	後期
33529	ヨーロッパ経済統合論B	EUの抱えている問題と課題について、国際社会における現実との関わりで応用的に理解ができるようになる。	2～4		
33531	社会言語学A	日本語と日本社会との関連を見る目を養うことを目標とする。	2～4		
33533	社会言語学B	日本語と外国語の発想性の異同を分析できるようになる。	2～4		
33535	東アジア社会情報論A	東アジア社会の民族問題について現状を理解する。	2～4		
33537	東アジア社会情報論B	東アジア社会の多様な文化・言語の現状について理解する。	2～4		
33539	国際金融論A	国際金融論の理論・制度・現状をバランスよく理解出来るようになる。	2～4		
33541	国際金融論B	基礎知識を前提に、世界各国が直面する複数の課題に視点を広げ、国際金融の現代的な問題や、歴史の中での経験、及び将来のあるべき制度について、自分自身の見識を持つことが出来る。	2～4		
33543	国際経済学	部分均衡分析・一般均衡分析を用いた貿易利益、貿易政策の経済厚生分析、リカード・モデル、ヘクシャー＝オリーンモデルを用いた比較優位の決定要因、国際労働移動・国際資本移動がもたらす経済厚生分析の手法について理解する。	2～4※2		

※1. 開講期は、Webシラバスでご確認ください。

※2. 隔年開講